

前回の懇談会における委員意見について

1 懇談会における意見

No.	項目	意見	回答, 対応案
1	世論調査	<ul style="list-style-type: none"> 設問が分かりにくい。次回の調査では、より単純にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回以降に世論調査を実施する際の参考としたい。
2	世論調査	<ul style="list-style-type: none"> より正確な市民意見を聞くのであれば、「評価できない取組」や「中止すべき取組」について問題を設定すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回以降に世論調査を実施する際の参考としたい。
3	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> 「市民と協働の推進」と「行政改革」とのつながりが少し分かりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の領域が広がる傾向にあることを踏まえれば、「市民が担う部分」の割合は大きくなり、市民と行政との信頼関係を深める取組は重要になると考えている。 市役所内部の改革だけでなく、都市を構成する主体としての市民と行政との関係も含めて、行政改革の取組と位置づけた。

No.	項目	意見	回答, 対応案
4	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> 行政本体が行うものは行政改革の取組として理解できるが、市民が主役となる取組を行政改革と言えるのか。 その一例として確認すれば、「宇都宮市地区行政推進計画」に掲げられた「地域予算制度の構築」の取組について、地域予算の決定権者と執行責任者は誰になるのか。 今回の資料からは、行革の一環として市民協働を進めるべきではなく、また、市民との協働という取組自体についても見直してはどうかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市は、市民満足を向上させる数々のサービスを実施しており、内部の改革を進めれば、行政と市民との関係にも変化が生まれ、影響が出るだろうと考えられる。 市民との関係性を整理し、相互理解の上で、協力し合ってまちづくりを進める「市民協働」も含めた形で、行政改革の取組を進めていきたい。 「行政改革と市民協働の関係」について、資料を再度整理し、委員各位に配布したい。 ⇒ 資料4 なお、「地域予算制度の構築」については、庁内で制度内容を検討中。
5	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> これからの社会は、市民が行政に入っていくということが非常に重要になると思う。例えば、税金を払っているから市役所や職員がすべてやりなさいということでは、まちづくりが上手く回らない場面が出てくるだろうと。 よって、今回の会議では、協働のキーワードは不可欠と思う。 	<p>(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)</p>

No.	項目	意見	回答, 対応案
6	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな形で地域活動, 市民活動に関わっていると, 日々, いろいろなことがある。行政だけで, そのすべてを担うことには限界がある。 ・ 地域で住んでいる仲間同士が理解し合い, 信頼ができるか。そういうものが, 今, 本当に必要だと私は思う。 ・ 市民協働の前提としては, 行政も市民も情報公開に心掛けるべき。情報を共有し合えてはじめて, 理解し合えるはず。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)
7	改革の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も行政改革は, 協働も含めて, 従来の行政サービスを変えていく取組すべてであると理解している。 ・ 行政改革という点, 経費削減や効率化に目が向きがちだが, 財源を今までにないような部分に振り向けることも立派な行革だと思う。3次までの行革にはなかった成果として, この「重点化」という点を第4次行政改革の基本的方向性に盛り込んではどうか。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)
8	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに協働ということで, 市民も行政の域に入り込んでくるし, 行政も市民の側に入り込んでいくということは必要だと思う。行政がより市民側に入り込み, 接触していくということも, 行政改革の一つであるはず。そのためには, さきほども意見があったが, 情報の共有による信頼関係の構築が非常に重要になると思う。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)

No.	項目	意見	回答, 対応案
9	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> 職員が地域の活動に参加することも重要。市民協働の取組として、また職員の意識改革の取組として、新たに掲げてはどうか。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)
10	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> 必要な協働は、市民としてやるべきである。ただ、その前にきちんと整理すべきことがあるのではないか。 例えば、第3次行革における具体的成果を定量的に整理し、目標に対してどれだけできたのか、どれだけできなかったのか。どうしてできなかったのか。このような整理をしない限り、次のステップには進めない。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)
11	重点取組項目	<ul style="list-style-type: none"> 道州制の議論が、選挙の結果次第では、かなり早く実現するのではないか。道州制が現実味を帯びてきた今、そのような制度改革に対抗できる体制について、検討の必要があると思う。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)
12	重点取組項目	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田市の「人事考課制度」や、長沼町での「分かりやすい広報」など、他市での先行事例から吸収できる点は大きい。新たな行政改革の取組として、参考にしてはどうか。 	(・ 今後の策定作業を進める上での参考とする。)

No.	項目	意見	回答, 対応案
13	経費削減と事業拡充	<ul style="list-style-type: none"> 資料からは、経費の削減と、事業の拡充との関係が分かりづらい。 「単年度主義」, 「予算の使い切り」について、何らかの検証が必要だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の懇談会では、削減により生み出したものを、例えば子ども医療費の助成など、新たな事業に振り向けていることを御報告した。市役所では削減することだけを追求しているのではなく、その減らした分を市民ニーズの高い部分に積極的に投入していることを御理解願いたい。 御意見として受け止め、今後の行政運営を進める上での参考としたい。
14	事業拡充と経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 経費の削減分を、新たな市民サービスに投資していることを誰にでも分かるように示すことができれ、行革の成果が明確に伝わるはず。 	<ul style="list-style-type: none"> 「経費削減と事業拡充」について、資料を再度整理し、委員各位に配布したい。 ⇒ 資料2
15	事業拡充と経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズを踏まえた各種事業を数的にどれくらい拡充し、その結果、市民生活はどのように変わったか。この「数字」と「ストーリー」について、整理してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「経費削減と事業拡充」について、資料を再度整理し、委員各位に配布したい。 ⇒ 資料2

2 懇談会以降、FAX等で寄せられた意見

No.	項目	意見	回答, 対応案
1	市民協働	<ul style="list-style-type: none"> 「行革＝節約」だけにとらえるのではなく、市民との信頼関係を強化し、パートナーとして補完し合うための推進策は不可欠。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の策定作業を進める上での参考とする。
2	資料整理	<ul style="list-style-type: none"> 重要取組項目等については、重要度順に並べた方が理解されやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の策定作業を進める上での参考とする。
3	質問	<ul style="list-style-type: none"> 資料中、「地域行政機関」の定義はどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に身近な場所において総合的な行政サービスを提供するとともに、住民主体のまちづくりを推進するための地域の行政拠点。 日常生活に密着した窓口サービスや保健福祉サービス等の行政サービスを提供するとともに、地域住民が主体となったまちづくりを推進するための支援や調整の役割を担う。 地域自治センター（2箇所）、地区市民センター（11箇所）、出張所※（4箇所）を配置している。 ※ 出張所は窓口サービスのみを実施
4	推進方策	<ul style="list-style-type: none"> （仮称）行政改革推進懇談会の人選について、大綱の策定過程を理解している行政改革大綱策定懇談会の委員からある程度の人数を選定してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の参考とする。

No.	項目	意見	回答, 対応案
5	事業拡充と 経費削減と	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減・収入増加のほか、「福祉」や「教育」など、経費が増加した分野について整理された資料があると、委員の理解がより深まると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を作成し、委員各位に配布する。 ⇒ 資料2
6	質問	<ul style="list-style-type: none"> 資料中、「行政評価制度の活用による事業の見直し」の項目について、制度の概要を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が実施する政策・施策や事業について、「どのような成果があったのか」、「当初想定した成果が着実に上がっているか」という視点から客観的に評価・検証を行なうもの。 この際、活動の結果、市民生活の向上の点で具体的にどのような効果を上げたのかという、成果を重視した評価を行っている。 このような仕組みを、行政運営の流れに組み込むことにより、「PLAN（計画）→DO（実施）→CHECK（評価）→ACTION（見直し）」という検討サイクルを確立し、行政活動の「質」を高め、市民サービスの向上を目指している。 ⇒ 資料3